

〈三郷学の視点④9〉

三郷学の実践

25. 「人『財』」〈地域の宝・消防団〉

平成23年の東日本大震災では、多くの犠牲を払いながらも地域住民の避難誘導や救出に力を注いだ消防団の重要性が再認識されました。多くのマンパワーを必要とし、かつ地域に密着し地域の実情を把握したうえでの迅速な活動が求められる大規模災害時、消防団には大きな役割が期待されています。

平成25年12月には、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行されました。消防団を中心とした市民の積極的な参加により、地域防災力を向上させ、市民の安全の確保を図ろうとするものです。

そうした中、平成26年8月1日現在、三郷市消防団は定員360名に対し、333名（うち女性消防団員14名）が消防団員として活躍しています。しかし、消防団員の約6割の方が被雇用者であるため、平日昼の災害対応には苦慮しているところで

あり、消防団員の確保が最重要課題となっています。

そこで三郷市では今年度、消防団員の確保を目的とした「消防団サポーター事業」を開始しました。消防団をサポートする協力事業所には黄色いのぼりが立ち、地域で消防団を支えています。また、少年消防クラブなどを通して、子どもたちに消防・防災への関心を高めると共に、将来の地域防災を担う人材育成に力を入れています。消防団は地域の宝、これらの「人財」も三郷市の貴重な資源の一つです。



女性消防団員アザレア分団・少年消防クラブも活躍しています。

がんばれ、消防団！
消防団応援店
消防団員募集中！
三郷市消防団
サポーター協力店